

第3回 JESUS (Japanese skill education for young gastroenterological Surgeons) を開催して
 JESUS 実行委員長 夏越 祥次
 広報委員会委員長 猪股 雅史

1. 開催にあたって

JESUS は若手消化器外科医の育成を目的に日本消化器外科学会が最も力を入れている取り組みの一つである。2015年にスタートしたJESUSは、夏越祥次実行委員長のもと、実行委員、受講者、スタッフの皆様の三位一体の取り組みにより大いに盛り上がりを見せた。第3回となる今回も全国から105名の新進気鋭の研修医が参加し、猪股雅史広報委員長のもと、熱海で熱く活気ある2日間のプログラムを実施することができた。

JESUS のプログラム企画に際して、以下の3つの特色を有している。

- (1) 研修医がじっくりと基本的な手技を学べるプログラムを企画：正確で丁寧な手術手技の実践は、臨床の場で生死を分けることも少なくない。ドライボックス、腸管縫合、VRシミュレーターを用いて、正しい手技、上手くできるコツを講師陣が伝授する。

- (2) 日本を代表する講師陣の招聘：腕の立つ外科医は世の中に数多くいるが、技術力に加え若手の指導力にも定評のある先生方を講師として招聘した。講師陣の face to face の熱い指導、受講者とのふれあいこそ、今後の医師人生に大きく役立つ。
- (3) 医療だけでなく将来の進路や人生について語り合うこと：1泊2日の合宿では、夕食後の懇親会の時間もたっぷりあり、先輩外科医や全国から集まってきた同世代の仲間たちと酒を酌み交わし、温泉に浸かりながらじっくりと交流を深めることができる。

このJESUSが参加者の将来にとってかけがえない素晴らしい経験となり、一人でも多くの参加者が消化器外科医の魅力に惹かれ、消化器外科の扉を開くことを目指すという目的を持って、実行委員一同、ベストエフォートで臨んだ。

2. 実績調査（本学会への新規入会者）

開催に先立ち、過去2回のJESUS参加者の本学会への入会状況を調査した。結果として、204名のJESUS参加者のうち、67名の新入会員を本学会に迎えたことが明らかとなった。尚、2016

年（第2回）の参加者に対する調査において、1年目研修医の入会は来年度の調査対象となるため、さらに入会者の増加が見込まれる。

	研修医参加者数	JESUS 後の本学会入会者
第1回（2015年）	100	42
第2回（2016年）	104	25
合計	204	67

3. 開催までの道程

前回のアンケート調査を参考に、第3回JESUSは2017年9月15日（金）16日（土）に熱海伊豆山温泉ハートピア熱海で開催することが決定した。広報委員会のメンバーである大段秀樹先生、國崎主税先生、小林美奈子先生、柴田近先生、野添忠浩先生、又木雄弘先生に加え、実行委員として岩下幸雄先生、恵木浩之先生、衛藤剛先生、海堀昌樹先生、木村英明先生、瀧口修司先生、土川貴裕先生、二宮致先生、野原京子先生、船橋公彦先生、盛真一郎先生、協力講

師として大井正貴先生、片桐敏雄先生、亀田千津先生、高橋広城先生、成宮孝祐先生、森和彦先生の総勢24名からなる強力な講師陣を招聘した。

広報活動としてホームページの更新を2016年10月に行い、第2回JESUSムービーの追加と2017年開催の告知を行った。第1回広報委員会・JESUS実行委員会合同会議は第117回日本外科学会定期学術集会会期中（2017年4月28日）に開催し、実行委員メンバーの紹介やブ

プログラムの検討、スケジュール確認を行い、5月11日に参加募集を開始した。第2回広報委員会・JESUS 実行委員会合同会議は第72回日本消化器外科学会総会会期中(2017年7月20日)に開催し、新たな協力講師メンバーの紹介やスケジュール確認を行うとともに、募集(110名)を応募(115名)が上回り、募集を終了したことが報告された。ジョンソン・エンド・ジョン

4. 開催前日(2017年9月14日)

講師陣の一部、運営事務局、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社スタッフは前日に熱海入りして準備を行った。機器の搬入、設営は第3回ということもあり、スムーズに行われて

5. 開催日(2017年9月15日、16日)

10時30分の受付開始とともに、受講者が次々と会場に到着した。北朝鮮の弾道ミサイル発射の影響で電車の運行が滞り、一部の受講者が遅刻したが、最終的には参加予定の全ての受講者が受付した。11時40分には大広間において班毎にテーブルに着席し、昼食を取りながら自己紹介を行った。開会式の後、18班を4グループに分け、腸管吻合、トレーニングボックス、シミュレーター、セミナーの受講を各1時間行った。受講者は非常に熱心に講師の指導を受けながら実技に取り組んでおり、濃厚な4時間の実習であった。終了後、全員の集合写真を撮影した(図1)。その後も夕食までの約2時間、トレーニングボックスの自主練習を行う受講者が大勢いて、少しでも上手になりたいという気迫さえ感じられた。全員に外科医になってほしいと強く感じるシーンであった。

夕食時にはすでに班員同士に友好ムードが芽生え、非常に和やかなムードであった。三重大学からは、伊勢志摩サミットでも各国首脳も味わったという特別な樽酒が振る舞われ、VRシ

6. アンケート結果

アンケート調査は閉会式の席上において行い、参加者全員(105名)から回答を得た(回答率100%)。実技に関しては、全てのブースにおいて80%以上の参加者が「よかった」と回答

7. 今後に向けて

第3回JESUSは、参加した全ての皆様の協力のおかげで、大成功に終わった。運営面においても、非常に円滑な印象であり、これまで実行委員長として本会を取り仕切って来られた夏越先生に改めて感謝と敬意を表したい。

JESUSは、本学会として最も重要な課題であ

り、ジョンソン株式会社の共催により、腸管吻合用のブタ腸管や縫合セット、ドライボックス、VRシミュレーターを準備していただくこととなった。セミナーに関しては、小西毅先生(大鵬薬品工業株式会社共催)、海堀昌樹先生(日本化薬株式会社共催)、井田智先生(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催)、森根裕二先生(株式会社ツムラ共済)にお願いし、快諾を得た。

いた。前日の打ち合わせでは、各ブースにおける指導すべき事項や実技を確認した。初めて参加する講師にとっては相互のコミュニケーションを図る非常に有意義な時間と感じた。

シミュレーター高得点班の表彰、又木先生のクイズ大会とともに会を大いに盛り上げた。その後、会場を移動してスモールミーティングが行われた。講師陣と受講者は浴衣姿で、差しつ差されつ、夜遅くまで交流を深めた。トレーニングボックスで早いタイムを記録し、翌日のコンテスト優勝を目指して早く休もうとする受講者もいたが、ライバルたちにビールを注がれ、阻止されていた。

2日目はトレーニングボックスコンテストが行われた。受講者は練習の成果を十分に発揮し、非常にハイレベルなコンテストとなった。タイム計測が間に合わず、事務局側が慌てる場面もあり、次回以降は少しタスクレベルを上げる必要があるかもしれないと感じた。

閉会式では、コンテスト優秀者の表彰の後、各班の代表から挨拶していただいた。挨拶では、「消化器外科医を目指します。」「やっぱり外科が好きだ。」などの感想が聞かれた。台風18号接近の天候の中、参加者全員を会場から送り出し、第3回JESUSの全日程を終了した。

した。実技時間の長さに関しては、「ちょうど良い」の46%を「もう少し短くても良い」の54%が上回っていた。また、今回のJESUSがあなたの今後に役に立つと全員が回答した(図2)。

る「消化器外科医を増やす」取り組みの一つとして明らかに貢献しており、参加希望者の増加などの現状を踏まえ、規模を拡大していく必要性があると考えられた。年2回開催、開催地の選定なども積極的に検討し、今後さらに発展させていきたいと思う。



図 1

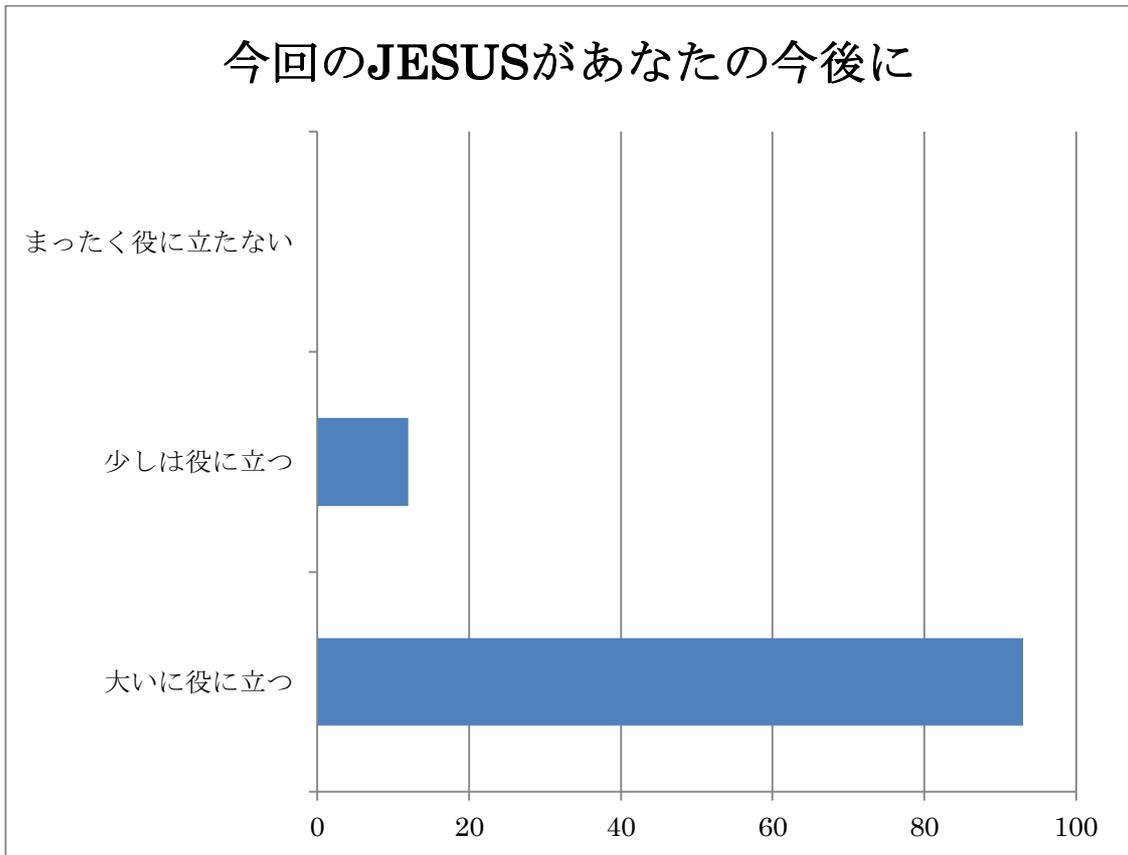


図 2